

< 学校長式辞 >

洛星高等学校長 阿南 孝也

60期生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、洛星で過ごした6年間の学生生活を通じて、神からいただいた能力を磨き伸ばしてきました。今思い返してみましても、皆さんがいろいろなことに積極的に取り組み、仲間と共に活躍してきた姿が次々と目に浮かんできます。

洛星から新しい世界へ巣立ってゆく皆さんに、「流され妥協するのではなく、潮流に逆らう勇気を持ってください」という言葉を贈ります。皆さんが進む世界は、決して完成された、愛に満ちた世界ではありません。解決が困難な多くの課題を抱えた世界です。2000年のニューヨーク同時多発テロ以降、世界は憎しみと不信感に覆われ、報復の連鎖が続きました。世界各地で起きている紛争に対して、「止めようがない」「仕方がない」と、私たちがあきらめてしまったとすれば、暴力の連鎖を容認し、それに服従してしまうことになるのではないのでしょうか。インド独立の父と慕われ、非暴力・非服従を貫いた愛と平和の人マハトマ・ガンジーは、「あなたができることのほとんどは、無意味と思えることかもしれません。それでもしなければならぬのです。それは、世界を変えるためではなく、世界によって自分を変えられないようにするためなのです」という言葉を遺しています。

カトリック教会によって福者の列に加えられたユスト高山右近は、各々が己の利益のみを追求する殺伐とした戦国の世にあつて、憎しみに対して憎しみを返さず、暴力の連鎖に服従することなく、信仰を守り抜き、権力者や栄誉など、この世の何ものによつても「変えられることなく」、神の愛を証しする生涯を送った人でした。

哲学者の鷲田清一先生は、身の回りを4つの視点から見極める力として、「絶対失つてはいけないもの」「あればよいに違いないが、なくてよいもの」「端的になくていいもの」「絶対にあつてはならないもの」を見極める力が大切であると述べておられます。目先の利益、身の保全、長いものに巻かれろ、空気を読む、と称して、人生において最も大切なもの、決して失つてはならないものを手放すことがないように心掛けなければなりません。

卒業生の皆さん、流され妥協する生き方に甘んずることなく、真実を貫くために戦う人であってください。潮流に逆らう勇気を持って、「悪に負けてはいけません。かえつて、善をもって悪に打ち勝ちなさい(ローマの信徒への手紙12章21)」というパウロの言葉を生きる人となってください。

ヨーロッパでは、難民の受け入れや受け入れを巡る反発が生じて、国家間の対立や社会不安が増大しています。平和な世界実現のために、私たちはあきらめることな

く、この問題に真剣に向き合わなければなりません。平和の種は、一人ひとりの心の中に播かれ芽生えるものです。しかし、世界中から戦争やテロをなくし、平和な世界を築くためには、個人レベルでの心の持ちように目を向けるだけでは不十分です。テロや紛争の多くは、根底に富の不平等や資源エネルギーの奪い合いが存在し、貧富の差はさらに拡大しているからです。平和の実りを得るためには、実に様々な分野での、粘り強い取り組みが必要です。洛星を巣立っていく皆さん、世界の出来事に関心を持ち、人の痛みに気づく心を育み、弱い立場に立たされた人の隣人となってください。人類の家である地球の傷を癒し、この星に住む人すべてが、安心して平和に暮らすことのできる世界構築のために貢献する人となってください。

卒業式は別れの式です。しかし同時に、卒業生の皆さんを、洛星から世界中に派遣する日であると考えています。洛星の卒業生は文字通り世界中で働いています。同じここ洛星でキリストの教を学んだ仲間です。あなた方を待っている人がたくさんいます。卒業生の皆さん、失敗を恐れず難題に立ち向かい、人々の幸せ実現のために必要とされている場で活躍してください。